

(2) 適性診断業務

(中期目標)

- ① 診断内容の高度化、受診者・事業者利便の向上等を図るため、診断機器の研究開発・導入を行うこと。

(中期計画)

- ① 効果を勘案しつつ、自動視野測定機の導入、アイカメラ・シミュレーターの開発・試行導入など機器の充実を行い、認知分野も含めた診断内容の高度化を図る。さらに貸出し用自動診断機器の開発を行い、全国に配備し、受診者・事業者の利便性を向上させる。

(年度計画)

- ① 業務実績等を踏まえつつ、更に、自動視野測定器を10台以上、貸出し用自動診断機器を50台以上導入し、受診者・事業者の利便性を向上させる。
また、アイカメラ・シミュレーターについては、引き続き、効果の検証を行うためにソフトウェアの開発及び実験を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

- 自動視野測定器は、利用希望者数の多い支所を優先に導入することとした。
- 貸出し用自動診断機器は、利用希望者数の多い支所を優先に導入することとした。
- アイカメラ・シミュレーターは、診断機器としての効果の検証をするため、ソフトウェアの開発・実験を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成16年度における取組み

- 自動視野測定器※は、診断内容の高度化を図るため、利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を10台導入した。
なお、平成16年度導入した機器は、下表のとおり。



項 目	導 入 機 器 仕 様
形 態	274(幅)×332(奥行)×307(高さ)mm
重 量	4.6kg
仕 様	スクリーニングポイント 77
付 属	インターフェイス(簡易プリンタ内蔵)
最大視標輝度	10,000ASB
ドーム範囲	300mm
測定時間	約3分(両眼で機器セット時間込み)
※ 自動視野測定器とは、緑内障等による視野狭さを、全方位にわたり検査する視覚機能測定機器	

○ 貸出し用自動診断機器は、受診件数及び今後の貸出予定等を勘案し、改良型を50台導入した。

なお、平成16年度導入機器は、下表のとおり、事業者や支所職員の意見・要望を取り入れ、前年度に比べ機器を小型軽量化し診断時間を短縮する等の改良をした。

○ 貸出診断機器による診断実績（平成16年度）は、4,920人である。

平成 16 年度導入モデル

平成 15 年度導入モデル

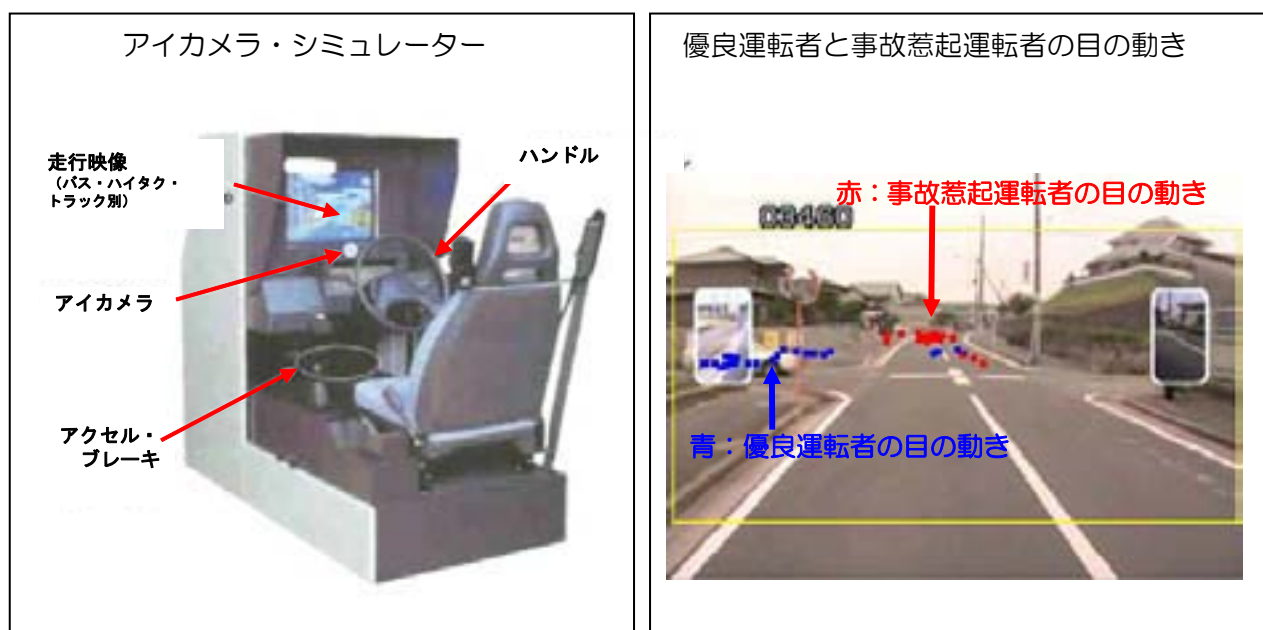


項 目	平成16年度導入モデル	平成15年度導入モデル	備 考
外形寸法	幅 :450mm 奥行 :415mm 高さ :485mm	幅 :600mm 奥行 :415mm 高さ :560mm	小型化(幅を150mm、高さを75mmカット)
重 量	19kg	27kg	軽量化(8kg減少)
診断方法	前の受診者がタッチパネルを終了後、NATSに移動すれば、次の受診者の診断が可能	前の受診者が全ての診断を終了後、次の受診者の診断が可能。	診断時間及び待ち時間の短縮 1名:90分→80分 (10分の時間短縮) 2名連続:180分→120分 (60分の時間短縮) 3名連続:270分→160分 (110分の時間短縮)
	質問に回答後、すぐに次の質問に移る	質問の読み上げが終了してから、次の質問に移る	

- 前年度に引き続き、アイカメラ・シミュレーターの効果の検証を行うため、バス運転者の目の動き等のデータ収集、解析ソフトの開発及び実験を行った。
- アイカメラ・シミュレーターによる収集データの解析により、次の結果が判明した。

■ アイカメラ・シミュレーターの概要

- ・実写映像を用い、現実に近い交通場面で診断することができる。
- ・非接触型のアイカメラを搭載し、受診者にストレスを与えずに目の動きを観察、記録することが可能。
- ・事業用車両（バス、ハイタク、トラック）の違いを考慮して、それぞれの業態に応じた運転映像を提示させることが可能。
- ・受診者の運転行動と目の動きを同時に記録可能。
- ・記録された運転行動と目の動きを再現させることが可能。

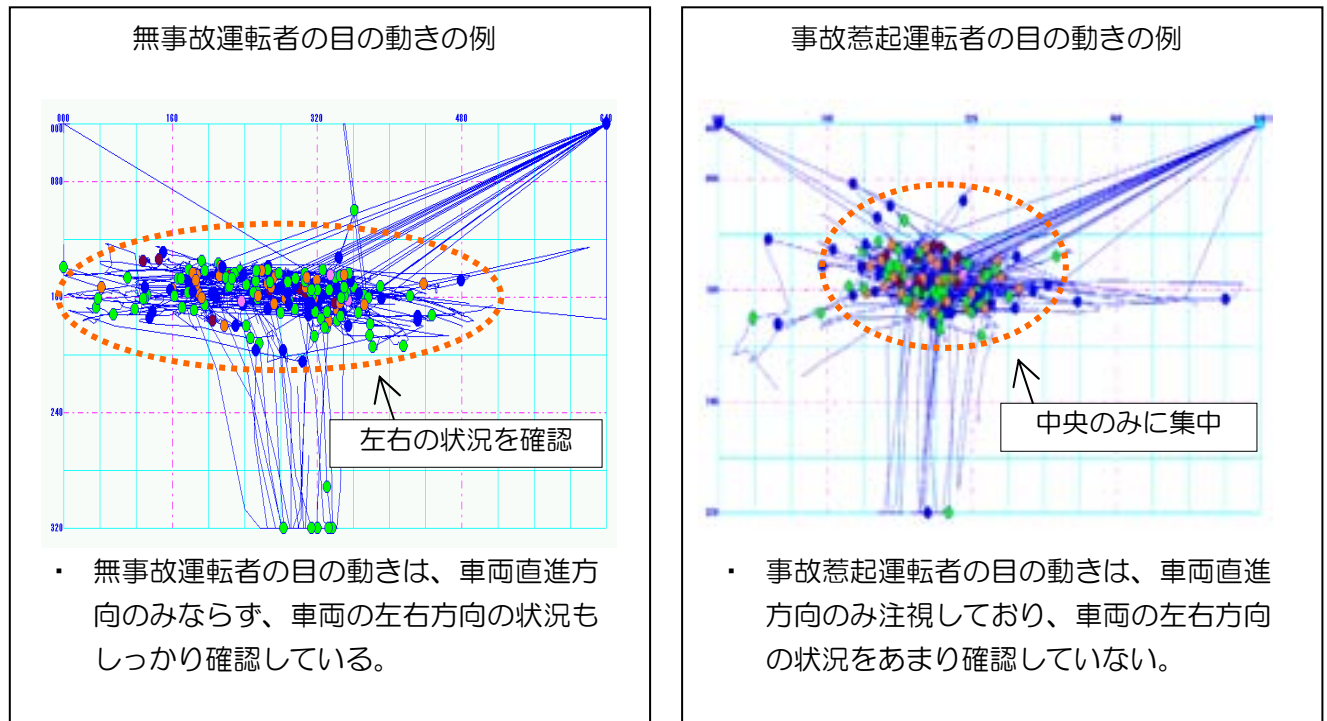


■ データの収集状況

	無事故運転者	事故惹起運転者	収集状況
トラック	80 人	80 人	平成 15 年度に収集済
ハイタク	80 人	80 人	
バ ス	80 人	80 人	平成 16 年度に収集済

■ 無事故運転者と事故惹起運転者のデータ分析結果

トラック運送事業従事運転者について無事故運転者と事故惹起運転者の目の動き（注視点）のデータを分析した結果、次の内容が判明した。



※ 右上の角に集まる線は「まばたき」があったことを示し、また、○の色は目が停まった時間の違いを示す

2) 次年度以降の見通し

- 次年度（平成17年度）以降は、段階的に支所に自動視野測定器を導入し診断内容の高度化を目指す。
- 次年度（平成17年度）は、平成18年度のアイカメラ・シミュレーター試行導入に向け、診断結果判定基準案を作成し、効果の検証を行う。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

- ② 診断結果を運転・運行管理に効果的に活用するため、助言内容の充実やカウンセリングの実施や指導講習との有機的な連携により、診断結果をより一層わかりやすく適切に提供すること。

（中期計画）

- ② 業態別等の診断結果の助言内容の充実、最新の事故事例研究・分析に基づくカウンセリング技法や小集団技法等の向上による助言指導の充実を図るとともに、運行管理者を対象とした適性診断活用講座を中期目標期間中に全支所において実施する。

（年度計画）

- ② 処置判断テスト・速度見越反応テストの結果に基づく助言内容を業態別等に改良するとともに、引き続き、最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法について、全カウンセリング担当職員に対して研修を実施し、適性診断の質を向上させる。
また、前年度（平成15年度）に策定した実施マニュアルに基づいた研修を職員に行うとともに、全主管支所において、適性診断活用講座を試行的に実施する。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

- 業態別等の診断結果を充実させるため、前年度（平成15年度）に引き続き、全6種類のテストのうち処置判断テスト・速度見越反応テストの助言内容を改良することとした。
- 前年度（平成15年度）に引き続き、最新の事故事例を適性診断に反映させるため、全カウンセリング担当職員に対して最新の事故事例研究分析に基づく診断技法の研修を実施することとした。
- 前年度（平成15年度）に策定した適性診断活用講座実施マニュアルを用いて、職員に対する研修を行うとともに、試行的に全主管支所にて実施することとした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成16年度における取組み

- テスト結果を電算処理するシステムが出力する処置判断テスト・速度見越反応テストの助言内容について、適性診断結果から予想される運転行動の例を記載し、より具体的に業態別に記述することにより適性診断結果と運転行動の関係がイメージしやすくなり、運転者にとってはわかりやすく、管理者にとっては助言・指導しやすくするため、下記のように10種から40種類へと充実させた。
- 従来の「動作の円滑さ」テストは、注意の配分について診断していたので、診断内容をよりわかりやすく理解してもらうため、名称を「注意の配分」に変更した。

適性診断項目の改良状況

適性診断項目		改良前のコメントの 種 類	改良後のコメントの 種 類	改良状況
性 格 テ ス ト	1. 感情の安定性	4種類	業態別に計18種類	平成 15 年度 に改良済※ ¹
	2. 協調性	4 種類	業態別に計 10 種類	
	3. 気持ちのおおらかさ	4 種類	業態別に計 10 種類	
	4. 他人に対する好意	4 種類	業態別に計 10 種類	
5. 安全態度		7 種類	業態別に計 168 種類	
6. 注意の配分		3 種類	業態別に計 20 種類	平成 16 年度 に改良済※ ²
7. 判断・動作のタイミング		7 種類	業態別に計 20 種類	
8. 危険感受性		次年度以降改良		
9. 動作の正確さ				

※1 平成15年度は、ペーパーテストのコメント改良を実施

※2 平成16年度は、コメント改良に伴うシステムの検証を含め、機器テストのコメント改良を実施
さらに判定基準の見直しを実施

〔適性診断の流れ〕

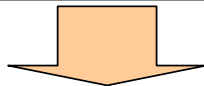
適性診断テストの実施



適性診断テスト結果の判定・助言内容の作成(電算処理)

【改良前：動作の円滑さコメント例】

動作の円滑さが十分でないようです。
つぎつぎに変化する道路上の状況をすばやく、正しくとらえて、それに応じて、すばやく、正確に反応していけるように努力してください。
それには、注意を1点に集中するだけでなく、その時どきに必要と思われる点を見きわめることが大切です。
例えば、交差点を右折するときには、対向車にだけ気をうばわれることなく、横断歩道上の通行人を確かめることも忘れないでください。
また、とっさの場合に、もたもたしないように、じょうずに素早い動作がとれるように努めてください。
もちろん、そのようなハツとする状態におちいらないように、つねに先を見通した運転をすることが大切です。



- “動作の円滑さ” から“注意の配分” に名称変更
- 業態別にコメントを作成

【改良後：注意の配分コメント例】

注意の配分が十分でないようです。
注意が一点に集中しがちになり、状況の変化をすばやく正しくとらえることができないことがあるようです。
注意というのは一点に集中すればするほど、周りの状況が見えなくなります。
事故を起こさない安全な運転をするために、必要な情報を見落としたり、見間違えたりしないよう、目だけでなく顔もバランスよく動かし積極的に情報を取り入れるようにしましょう。
例えば、交差点を右折するときには、対向車にだけ注視し過ぎないで、横断歩道上の通行人を確認することも忘れないでください。

+

業態別コメント例

<バス>

また、路線バスの運転では、停留所で停・発車する際、前方の確認とともに、後方の車両の確認も忘れないでください。先を見通した運転を意識的に習慣づけるようにしましょう。

<ハイタク>

また、タクシーの運転では、空車時にお客様を見つけ左へ寄せて停車する際、お客様だけに気を取られず、左後方から接近してくるバイク等の確認も忘れないでください。先を見通した運転を意識的に習慣づけるようにしましょう。

<トラック>

また、トラックは、死角が多くあります。特に、左折時には、前方の歩行者にだけ気を取られず、左後方からのバイク、自転車、歩行者に対する確認も忘れないでください。先を見通した運転を意識的に習慣づけるようにしましょう。

<自家用>

先を見通した運転を意識的に習慣づけるようにしましょう。



適性診断結果に基づく助言・指導の実施

○ 全カウンセリング担当職員に対して最新の事件事例研究・分析に基づく診断技法の研修を実施した。

- ・ 全カウンセリング担当職員（特定適性診断員）教育・訓練
- ・ 対象者 117人
- ・ 研修項目 最新の事件事例研究・分析に基づく診断技法

「自動車運送事業に係る交通事故要因分析報告書（平成15年度）」にある事件事例から運転者に係る「問題点の考察」と「対応策の検討」を参考に、事故再発防止のための効果的な助言指導を行えるよう、小集団による事例検討を行い診断技法の向上を図った。

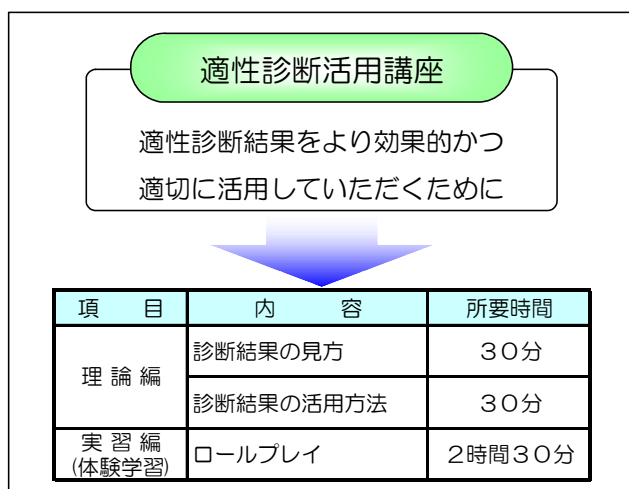
○ 適性診断活用講座については、平成15年度に策定した実施マニュアルに基づき、平成17年度から全支所での実施に向けた主管支所管内の担当者に対する研修を実施するとともに、受講用のテキストを作成した。

なお、平成16年度に、全主管支所における試行実施の状況は、下表のとおりである。

適性診断活用講座の受講者数

講座開催回数	受講者数			
	バス	ハイタク	トラック	計
26回	135人	155人	111人	401人

適性診断活用講座の流れ



テキスト



2) 次年度以降の見通し

- 次年度（平成17年度）以降は、危険感受性テスト・重複作業反応テストの助言内容を改良する。
- 引き続き、助言内容の充実を図るため、全カウンセリング担当職員に対し研修を実施する。
- 適性診断活用講座は、平成17年度以降全支所において実施する。

（中期目標）

③ 職員の資質の向上を図るため、研修制度の充実、カウンセリング技術の取得等を行うこと。

（中期計画）

③ 職員の資質を向上させ、助言指導を充実するため、計画的に職員への研修を実施し、中期目標期間中に診断業務担当職員の80%以上に産業カウンセラー資格を取得させる。

（年度計画）

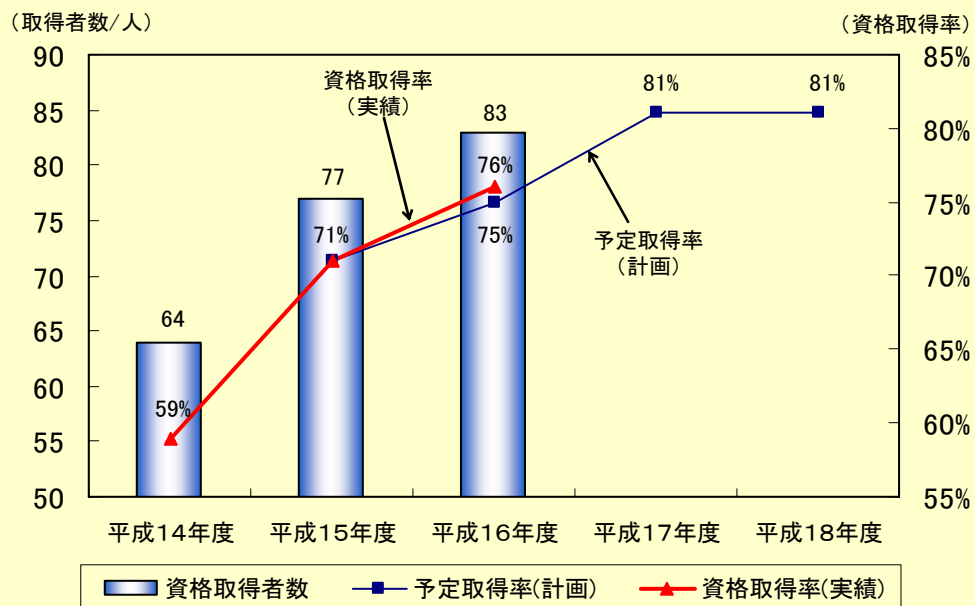
③ 産業カウンセラーの資格取得研修を計画的に実施し、適性診断担当職員の75%以上の職員に資格を取得させる。

◎ 年度計画における目標値設定の考え方

中期計画に基づき、産業カウンセラー資格取得計画により、適性診断担当職員のうち75%以上に産業カウンセラー資格を取得させる目標とすることとした。

◎ 実績値

○ 平成16年度適性診断業務担当職員のうち76%の職員が産業カウンセラー資格を取得した。
産業カウンセラー資格取得者の実績等



◎ 実績値が目標に達しない場合には、その理由及び次年度以降の見通し

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

- ④ 受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

- ④ 事業者の運行管理における診断結果の活用を促進するため、支所からオンライン化により得られた全国的な診断結果データを地域別、事業者別、業態別、年齢別に解析し、個人情報の保護を図りつつ、事故防止に資する情報として事業者及び関係者に提供する。

（年度計画）

- ④ 引き続き、前年度（平成15年度）に構築したシステムを活用し、個人情報の保護を図りつつ、事業者及び関係者に情報提供を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

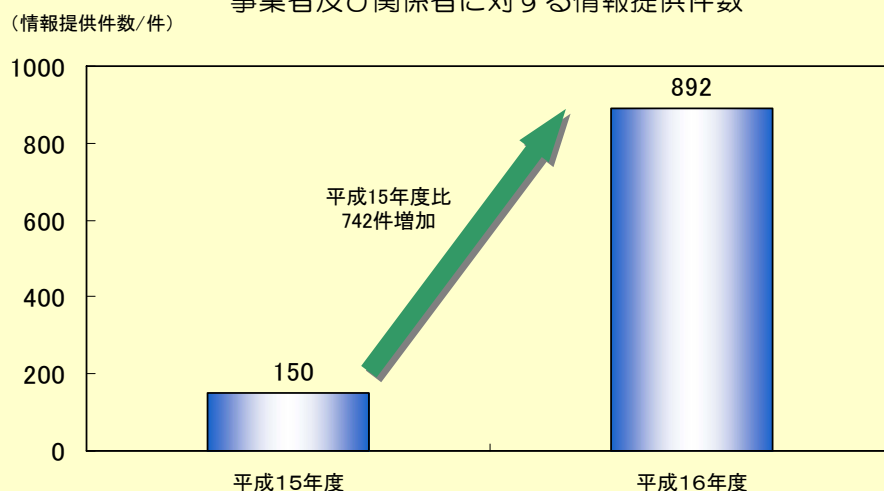
前年度（平成15年度）に構築したシステムを活用し、事業者及び関係者に情報提供を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成16年度における取組み

- 事業者及び関係者に対して、前年度比742件増加し、892件の情報提供を実施した。

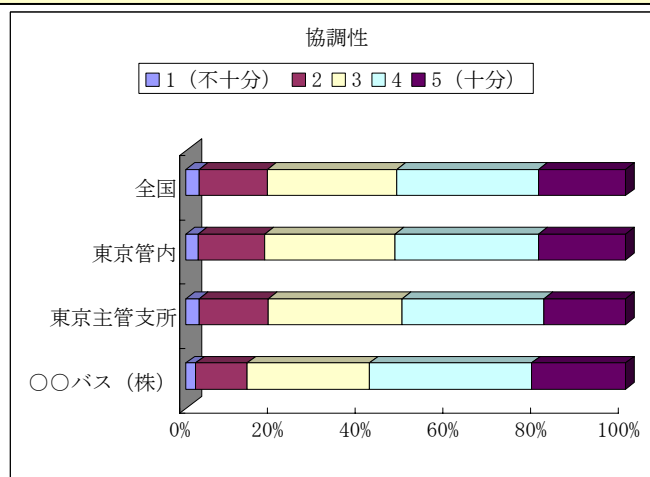
事業者及び関係者に対する情報提供件数



【情報提供の例】

全国と自社とのデータ
（診断項目別）

地域別・事業者別・業態別・
年齢別にそれぞれ抽出可能
（ただし、個人データは非開示）



2) 次年度以降の見通し

引き続き、事業者のニーズに応じ、個人情報の保護を図りつつ、情報提供を実施する。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(中期目標)

- ④ 受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

(中期計画)

- ⑤ 定期的に受診者・事業者に対する調査を実施し、ニーズ等を踏まえ、適性診断の内容の充実に反映する。

(年度計画)

- ⑤ 引き続き、受診者・事業者に対する調査を実施し、調査結果に基づき診断の実施方法等の改善を含めた診断内容の充実を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

中期計画に基づき、診断内容の充実を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成16年度における取組み

- 前年度に実施したニーズ調査の結果に基づき、下記のとおり、要望の多い項目を優先に改善を行った。

(1) 主な改善内容

- ① 診断内容の改善：診断結果のコメントを業態別に改良することにより、運行管理者が運転者指導を行いやすく改善した。

コメント改良リーフレット



② 診断機器の改善：本所診断機器のディスプレイ画面を反射の少ない液晶画面に改善した。

新：66台、旧：307台、計373台

(新) 反射の少ない液晶画面



諸元

奥行: 610mm

幅: 700mm

高さ: 1,380mm

(フード付き→ブース化実現)

(旧) 診断機器



諸元

奥行: 1,177mm

幅: 800mm(隣接スペース含む。)

高さ: 1,350mm

(フード無し)

③ 会場・施設の改善：嫌煙者に配慮し待合室に喫煙装置を設置し、受診環境を改善した。

分煙機設置23箇所、分煙機のない支所に空気清浄機27機

喫煙装置を設置した待合室



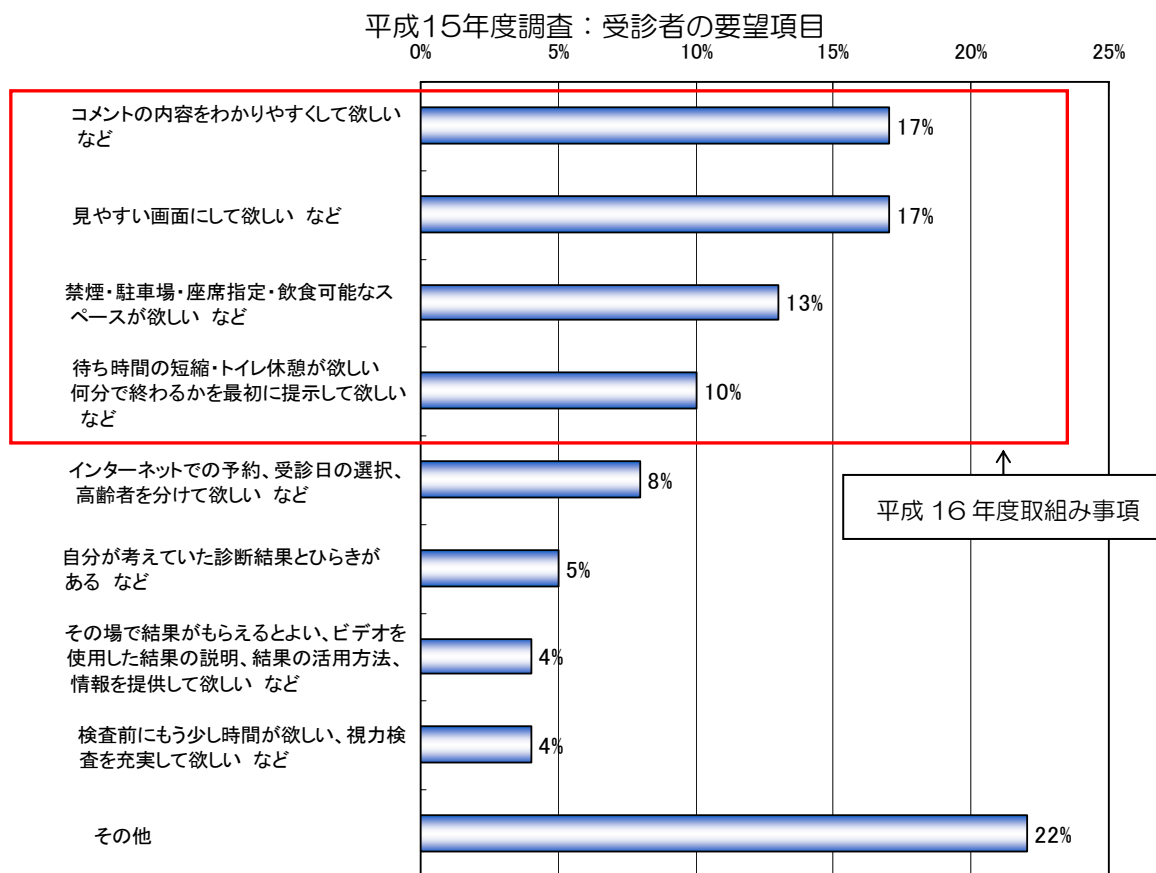
- ④ 時間配分の改善：診断室に当日の受診スケジュールの周知を図るためなどにディスプレイ表示装置を設置することにより、受診者の診断時間の短縮、時間待ちのイライラの解消等受診環境を改善した。

環境改善に寄与するディスプレイ表示装置



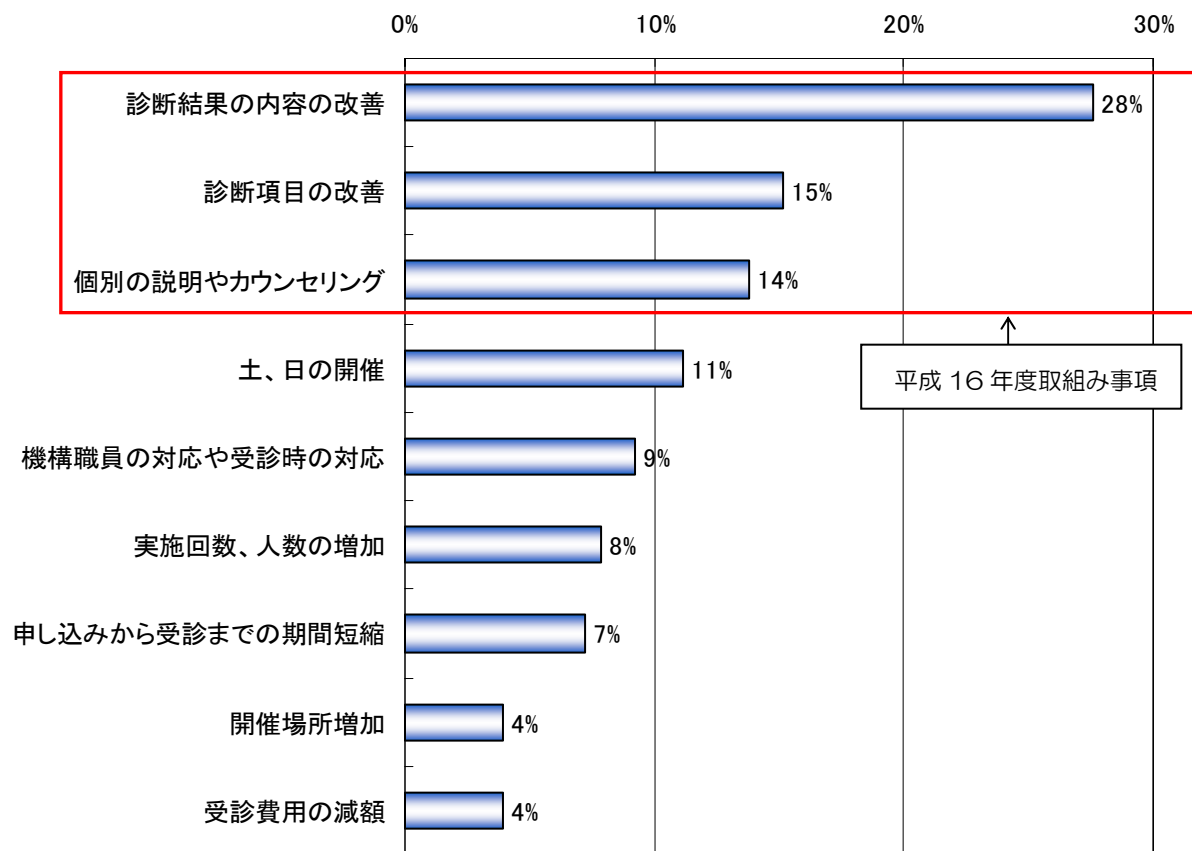
東京主管支所に設置

＜参考＞ 平成15年度、受診者（1,658人）、事業者（2,001社）に対して調査を行ったところ、受診者（1,658人）、事業者（990社）から回答を得た。



※その他（出張診断をしてほしい、カウンセリング内容を充実してほしい など）

平成15年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



(2) 受診者、事業者に対して、調査を実施した。

【調査の概要】

- ・調査期間：平成17年1月～3月
- ・調査対象：全主管支所の平成17年1月～2月の受診者

受診者に対する調査の回収率等

項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	14,829	6,253	1,571	180	22,833
調査件数	722	341	106	144	1,313
回収件数	722	341	106	144	1,313
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

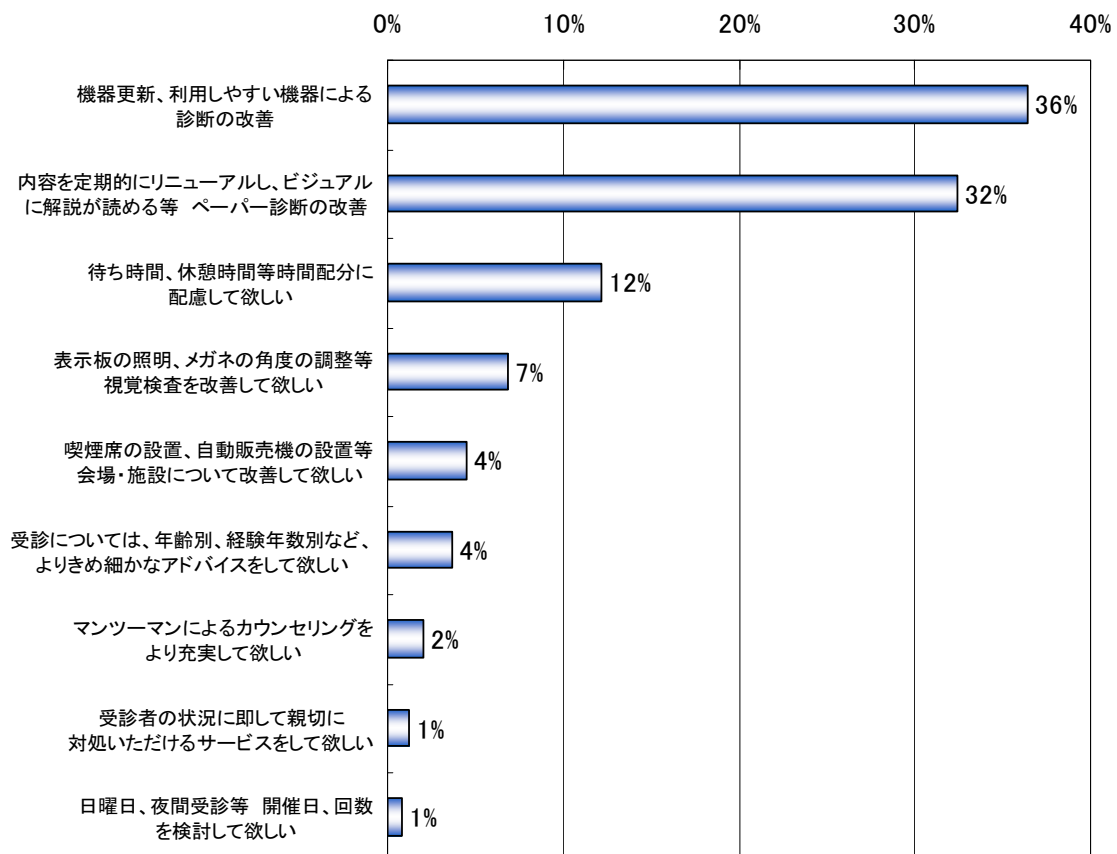
【調査の概要】

- ・調査期間：平成17年1月～3月
- ・調査対象：全主管支所の対象事業者

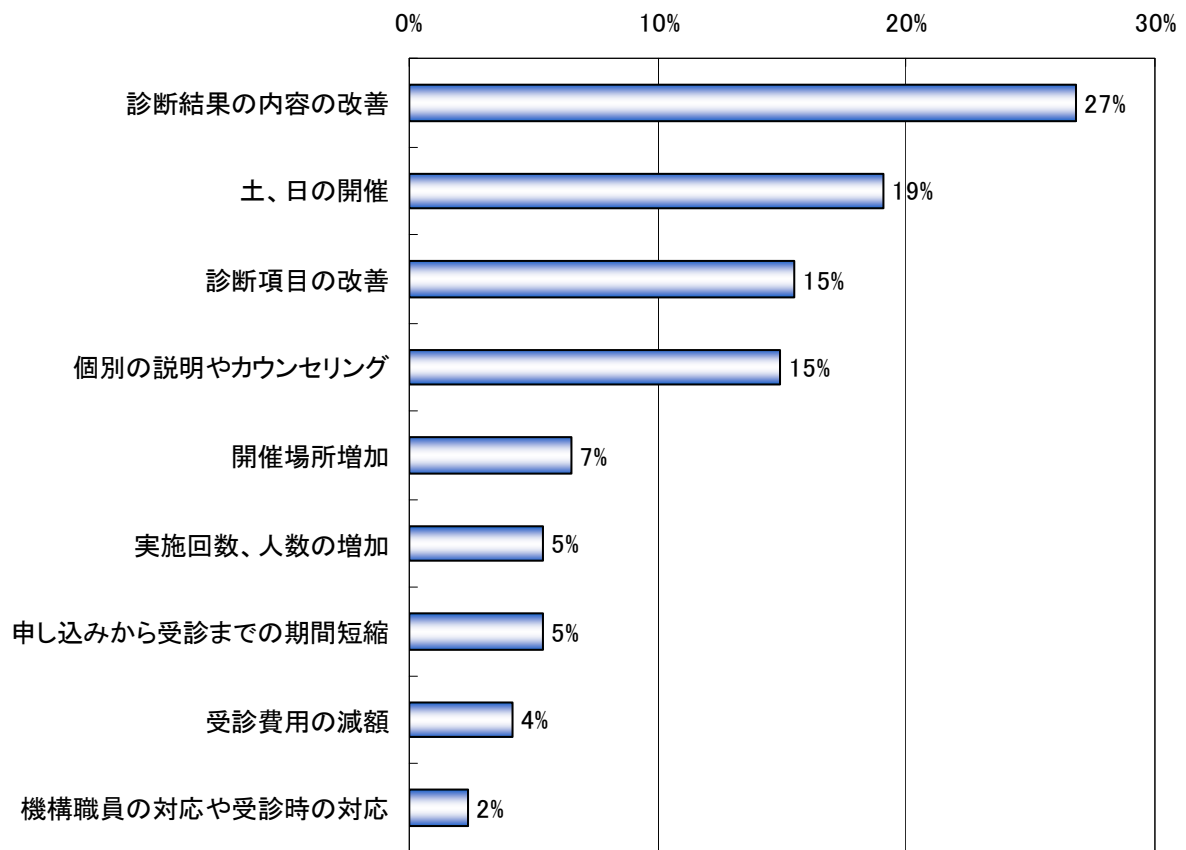
事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	1,016	2,092	22,733	25,841
調査件数	110	376	1,514	2,000
回収件数	75	229	739	1,043
回 収 率	68.2%	60.9%	48.8%	52.2%

平成16年度調査：受診者の要望項目



平成16年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



2) 次年度以降の見通し

平成16年度の調査結果に基づき、診断内容の改善、診断機器の改善及び受診環境の充実など、効果を勘案しつつ、要望の高かった事項を改善するとともに、引き続き、受診者・事業者のアンケート調査を実施して診断内容の充実を目指す。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(中期目標)

⑤ 以上により、事業者の安全対策の充実・改善を促進し、事故防止効果を高めること。

(中期計画)

⑥ 以上の施策を実施することにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに4.0以上とする。

(年度計画)

⑥ 以上の措置を講じることにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度（平成16年度）について、4.0以上とする。

◎ 年度計画における目標値設定の考え方

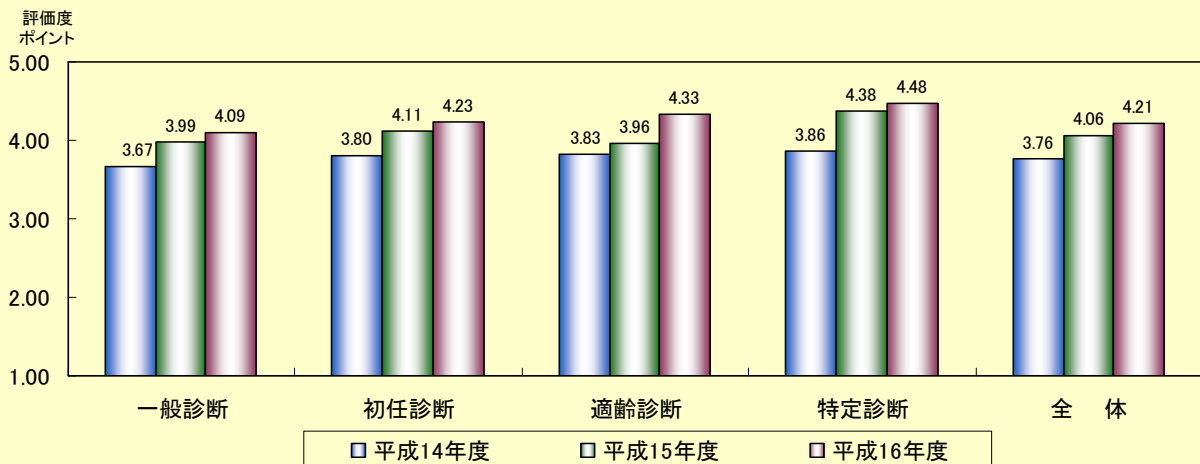
前年度（平成15年度）に引き続き、4.0以上の評価を獲得することとした。

◎ 実 績 値

○ 受診者の評価度

平成15年度より、0.15ポイント向上させた。

受診者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度



【調査の概要】

- ・調査期間：平成17年1月～3月
- ・調査対象：全主管支所の平成17年1月～2月の受診者

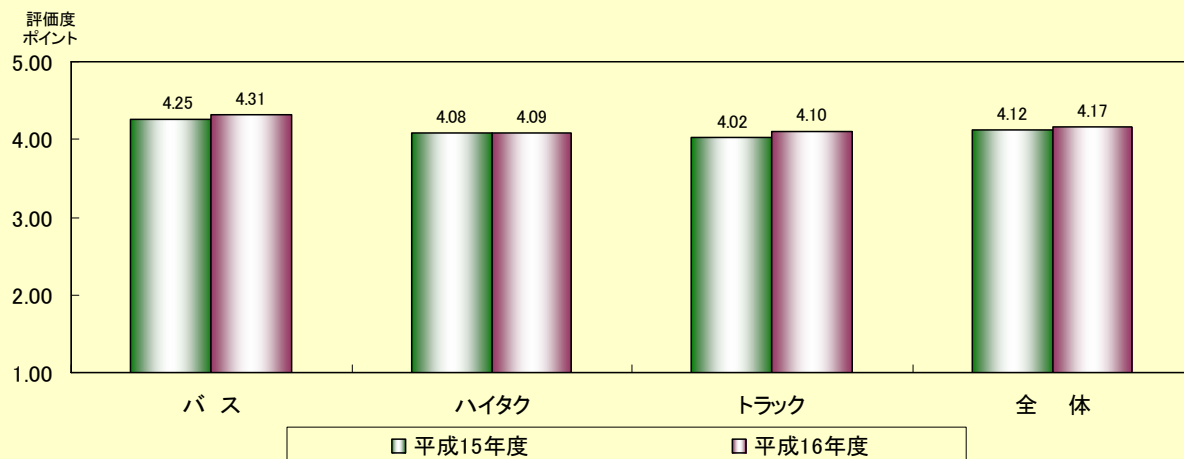
受診者に対する調査の回収率等

項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	14,829	6,253	1,571	180	22,833
調査件数	722	341	106	144	1,313
回収件数	722	341	106	144	1,313
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

○ 事業者の評価度

平成15年度より0.05ポイント向上させた。

事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度



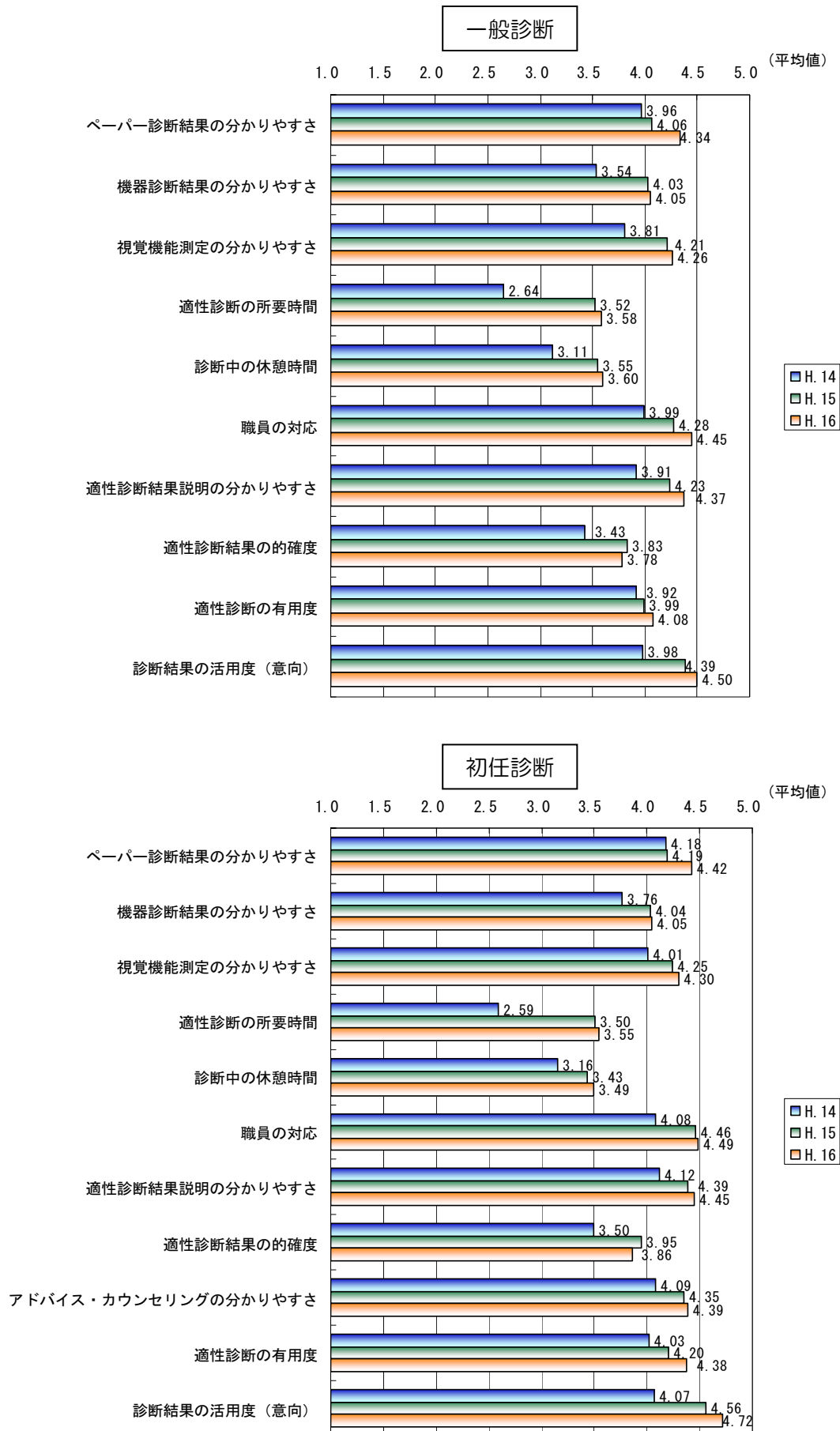
【調査の概要】

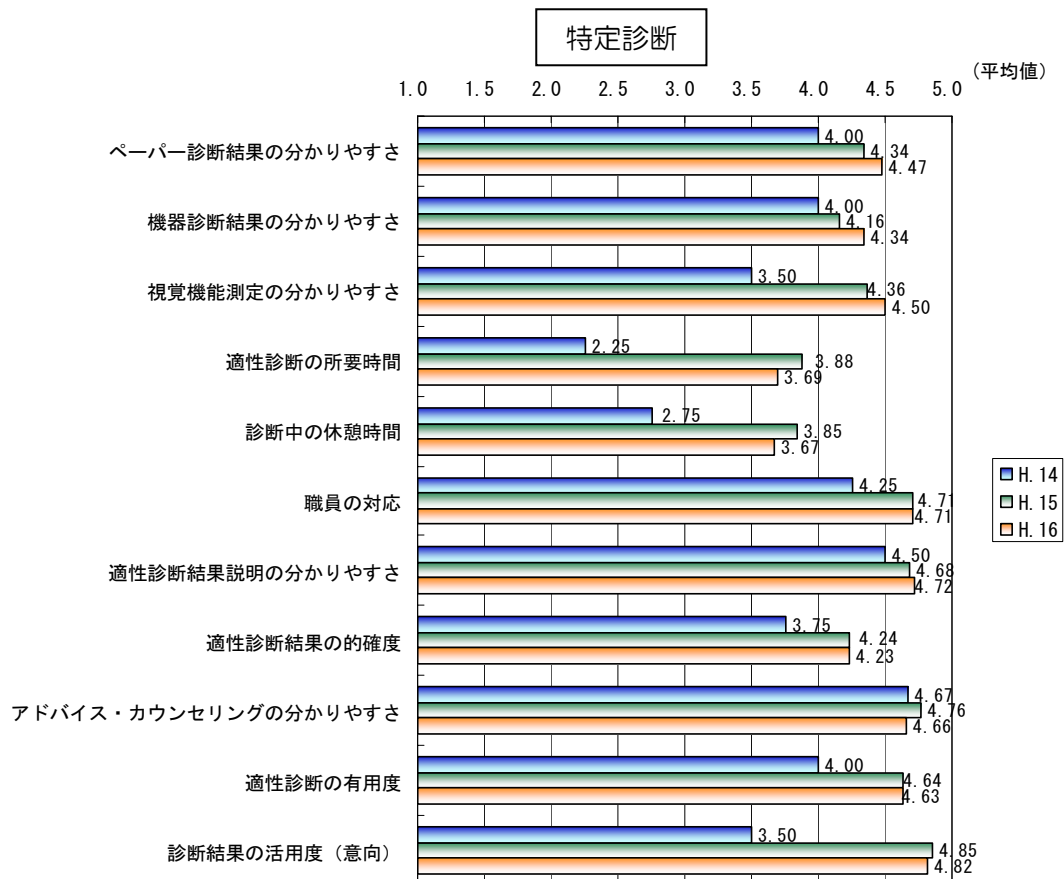
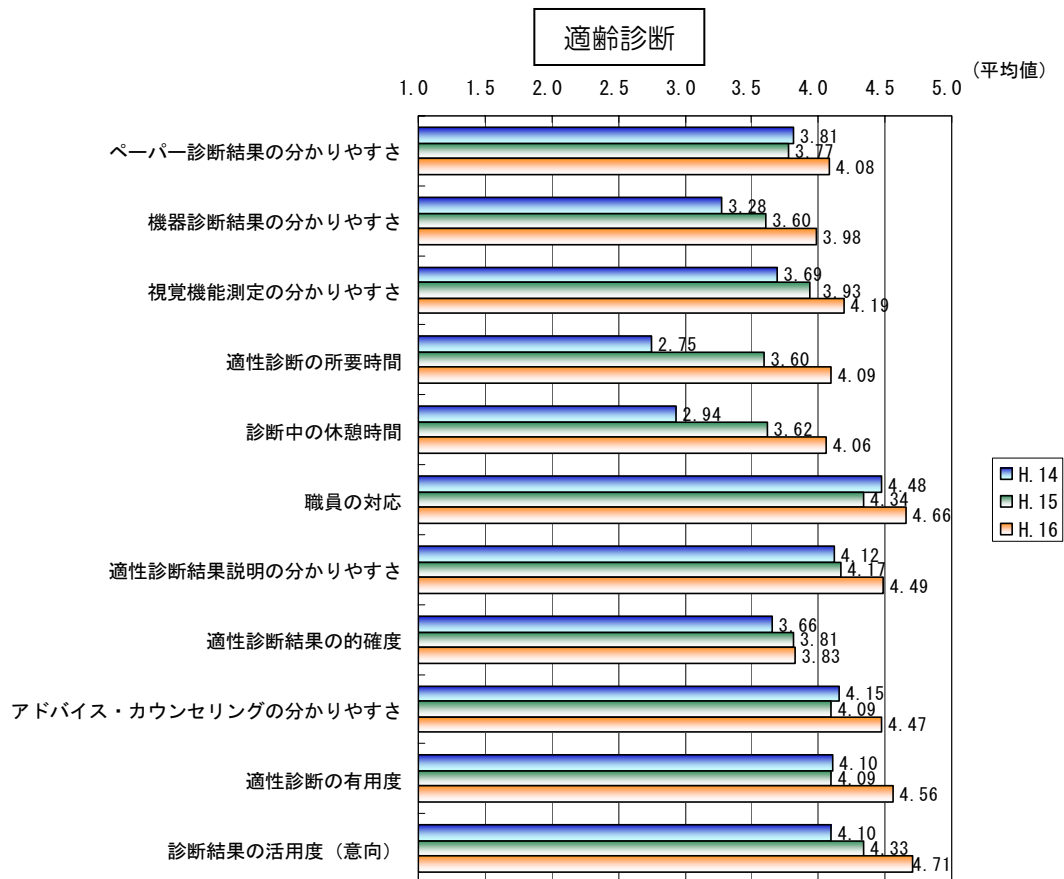
- ・ 調査期間：平成17年1月～3月
- ・ 調査対象：全主管支所の対象事業者数

事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	1,016	2,092	22,733	25,841
調査件数	110	376	1,514	2,000
回収件数	75	229	739	1,043
回 収 率	68.2%	60.9%	48.8%	52.2%

適性診断別安全対策への支援効果に関する項目別評価





◎ 実績値が目標に達しない場合には、その理由及び次年度以降の見通し

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報